

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立広瀬小学校
作成日	平成26年 1月 16日

1 教育目標

たくましく豊かに生きぬく子を育てる

2 本年度の取組についての評価

	地域との連携	心の豊かな子どもを育てる	よく考える子どもを育てる
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と地域が一丸となった子育てや学校行事への地域の協力、地域の行事への参加等、学校と地域が連携した取組に努力する。 ○ 外部評価を学校教育全般の見直しや改善に生かし、地域に根ざした学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校の利点を生かし、児童の縦の繋がりを大切にする取組の中で、児童のリーダー性や優しい心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別活動の研究を核として、児童に「質の高いコミュニケーション力」を身に付けさせる取組に努力する。 ○ 児童の実態を把握し、子ども同士が高まり合う魅力ある集団活動の充実をめざす。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域のお年寄り お食事会」「七夕祭り」「盆踊り」等、学校行事や地域の行事に連携した取組を実施した。 ○ 児童の登下校を見守る「広瀬の子見守り隊」と協働を図り、児童の安全確保と学校と地域の連携の基とした。 ○ 「学校だより」「保健室だより」、「給食だより」等を配布し、地域との連携の基となる情報発信を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「なかよし活動」といった縦割りの活動を、「1年生の校内探検」「スポーツテスト」「春の遠足」「運動会」等の学校行事に活用した。その中で、児童一人一人が「豊かな心」が育まれるように計画と内容を充実させた。 ○ 週に一度は、校門前に各学年が交代で立ち「挨拶運動」を実施した。地域の方への挨拶や児童同士のかかわり、挨拶をすることで心の変化等、多面に及ぼす影響を大切に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級会活動での提案理由の説明、話し合いの柱の確認、多数決に頼らない決議等で必要なものは、相手や全体に配慮した表現力やコミュニケーション力である。これらを「広瀬の学力」と捉え、学習や活動、生活等に広げられるように努力した。
取組の成果と課題【G】	<p>平成25年度は、広瀬小学校の開校140周年であった。自治会長、各種団体長をはじめ、地域の皆様の協力を得て、記念式典や記念カプセルの埋設等の事業を地区をあげて行うことができた。その中で、地域の「愛校心」の強さや学校に協力的なあたたかな心を痛感した。</p>	<p>広瀬小学校の児童を一言で言えば、「優しい」という言葉が浮かぶ。この優しさを活かした活動は「なかよし活動」に集約されている。その中で、下級生への気配りや児童全体、グループ等で楽しむための創意・工夫が伺われた。挨拶運動でも、当番の日には時間を早めて登校する児童も多い。取組の一つ一つに、児童の成長と心の育みを感じられた。これらの活動は、継続が大切であると考えられる。</p>	<p>本年度は、特別活動における相手意識や場の状況判断に、児童の成長が伺われた。また、研究面においても「質の高いコミュニケーション力」に視点を当てた取組を行った。教科学習では、思考力と表現力の伸びが確認されている。児童が生涯的に活かせる「学力」を定着させることを願う取組に今後も努力したいと考える。</p>
次年度に向けての改善方法【A】	<p>広瀬小学校には、地域と連携させた行事や取組が数多く計画されている。児童の登下校の安全についても「見守り隊」のお世話になり、PTA主催の「七夕祭り」でも地域の協力は欠かせない行事となっている。協力体制をさらに強め、地域が一丸となって子育てに取り組めるように願っている。</p>	<p>児童の実態である「優しい子」を活かした取組が、学校運営、人権教育、規範意識の定着等に波及すると感じる。それには、校長のリーダーシップのもと、教職員が共通理解し協力体制を組むことが大切であろう。そこから「心の豊かさ」が生まれると考える。</p>	<p>特別活動の学級会活動の中で、主に児童の思考力と表現力の向上が確認されている。これらの力を、今後は教科学習に繋げていきたいと考える。本年度の児童の実態には、読解力向上への取組が一番の課題である。読書への勧めと共に、国語科の学習形態の改善を試みたいと考える。</p>

3 その他の課題

昨年度と同様、児童の安全確保、児童一人一人への行き届いた指導、校内の整備等から、小規模校特有の職員数不足が大きな課題である。現在、職員全員が一丸となって学校行事の計画や運営、地域と連携させた行事等に取り組んでいる。さらには、和歌山大学の学生ボランティアの支援、協力もお願いしている。しかし、児童の安全面や指導面、行事の運営に行き届かない状況が時々見られる。